

焼岳の火山活動解説資料（平成 26 年 4 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 23 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

北陸地方整備局が設置している焼岳北カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは 0～100m で経過しました。また、同局設置の焼岳南西斜面カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは 10～100m で経過しました。その他の地域で噴気は認められませんでした。

・ 地震活動（図 3 - 、図 4、図 5）

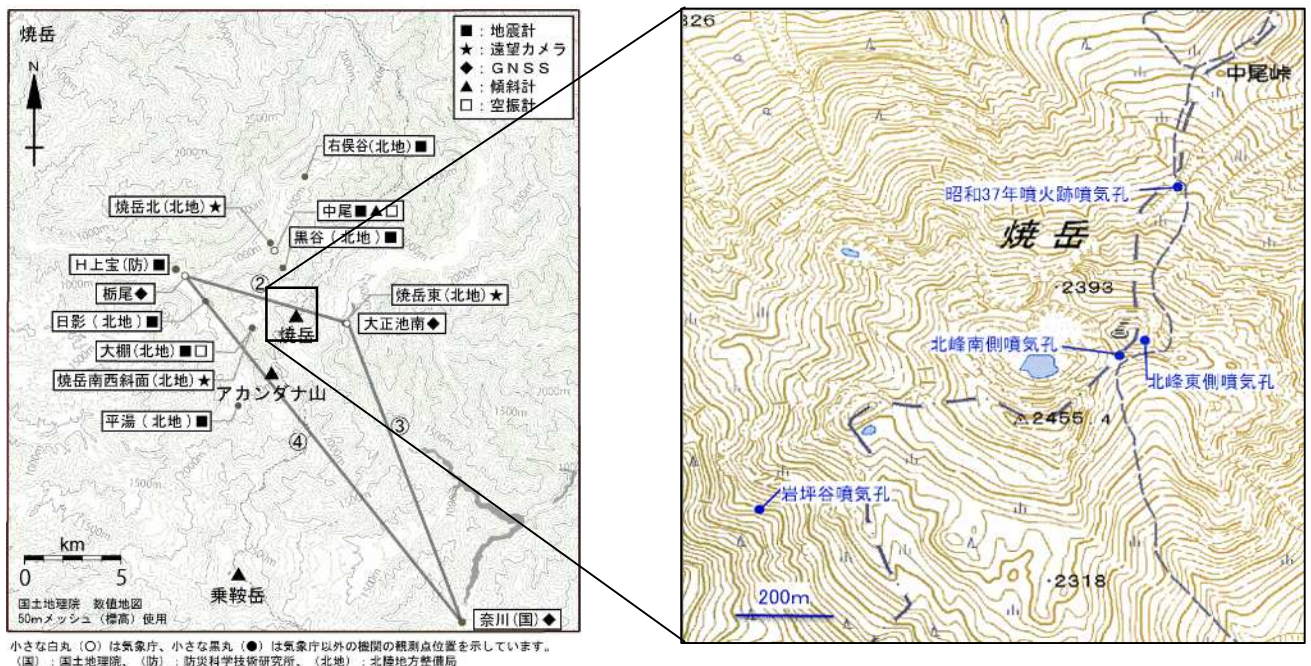
期間内では、焼岳を震源とする火山性地震の発生回数は少ない状態で、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

5 月 3 日（期間外）から焼岳山頂の北側数 km を震源とする地震活動が活発化し、高山市栃尾と松本市安曇で最大震度 3 を観測したほか、体を感じる地震も多発しました。その後、地震活動は次第に低下しています。この期間、地殻変動や北峰付近及び岩坪谷上部の噴気の状況等に特段の変化がみられないことから、この地震活動は火山活動の活発化を示すものではないと考えられます。

・ 地殻変動の状況（図 3 - ～ ）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 5 月分）は平成 26 年 6 月 9 日に発表する予定です。
この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000 焼岳（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 2 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況

（左図：4 月 25 日 焼岳北カメラ、右図：4 月 25 日 焼岳南西斜面カメラ）

【計数基準の変遷】開 始	2010 年 8 月 2 日～2010 年 9 月 21 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P2 秒以内
変 更	2010 年 9 月 22 日～2011 年 3 月 10 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P1 秒以内
変 更	2011 年 3 月 11 日～2013 年 9 月 30 日	中尾振幅 3.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P1 秒以内
変 更	2013 年 10 月 1 日～	中尾振幅 2.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P1 秒以内

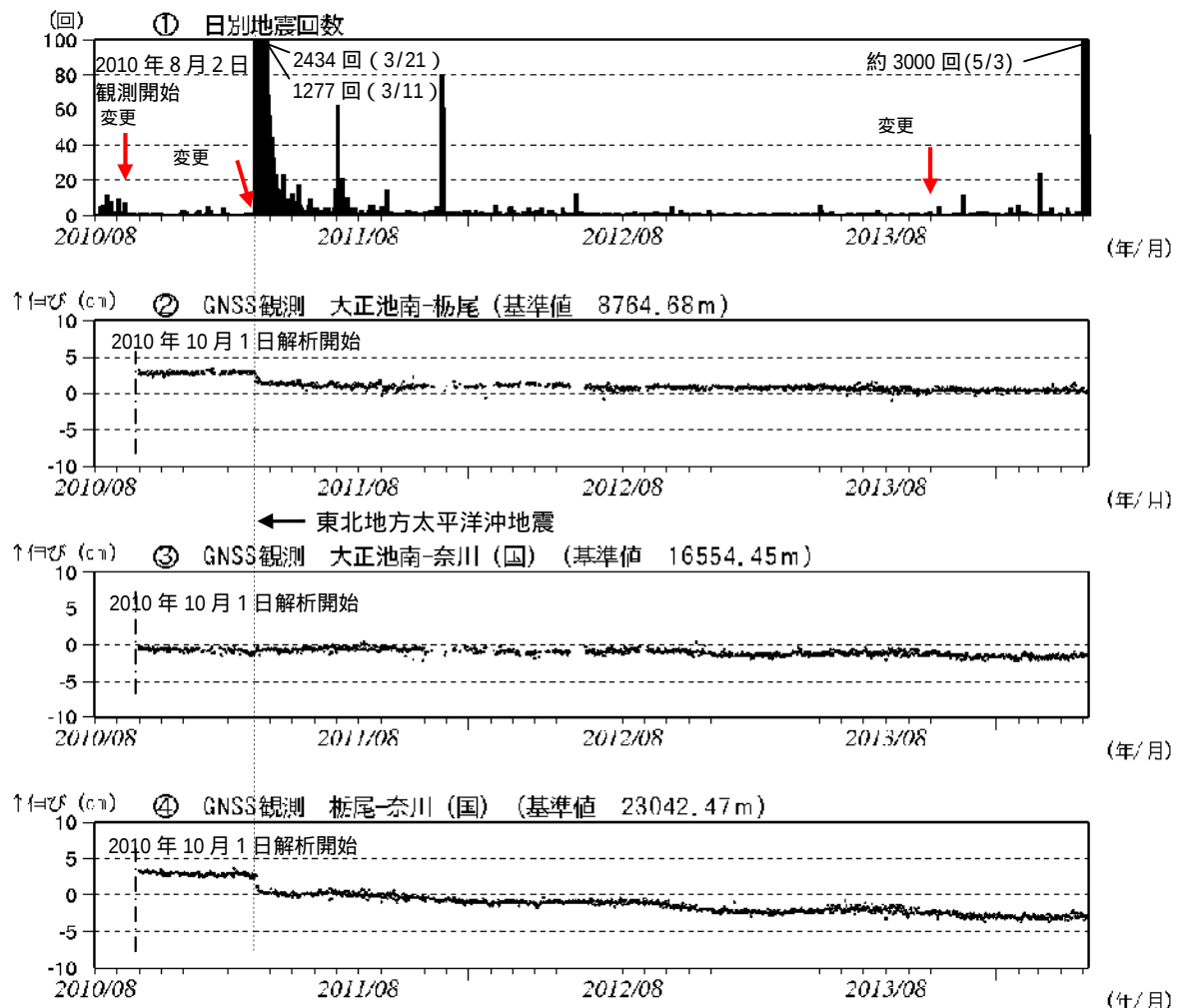


図 3 焼岳 火山活動経過図（2010 年 8 月 2 日～2014 年 5 月 8 日）

焼岳周辺の日別地震回数

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。5 月 3 日から 8 日の期間には一部未処理の期間があります。

～ GNSS 連続観測による基線長変化（国）：国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。

～ は図 1 の ～ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

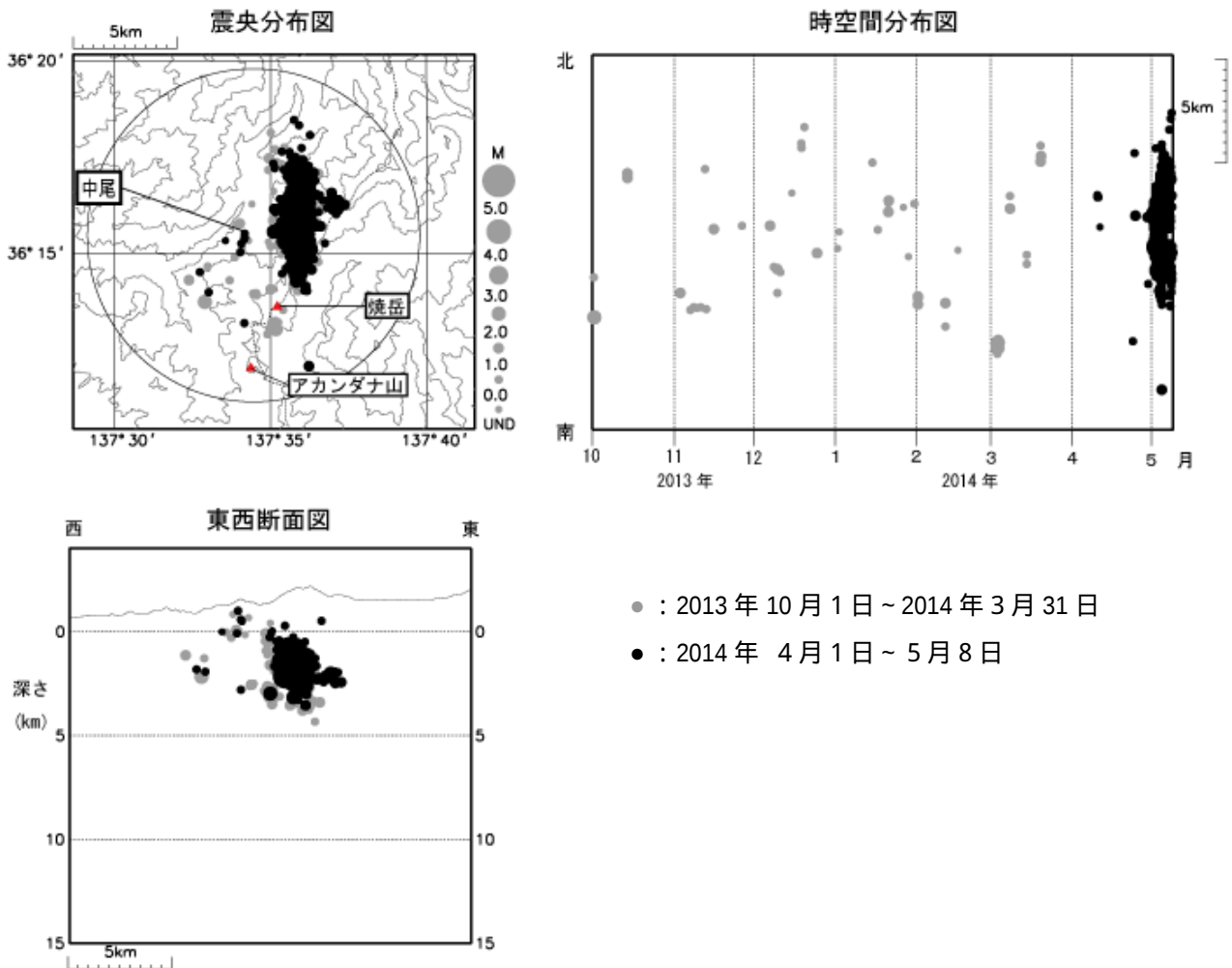


図 4 焼岳 震源分布図（2013 年 10 月 1 日～2014 年 5 月 8 日）
震央分布図中の円は図 3 - の計数対象地震（中尾で S - P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示します。5 月 3 日から 8 日の期間には一部未処理の期間があります。

